

『環境政策論講義』 竹本和彦 編 『脱プラスチックへの挑戦』 堅達京子 著

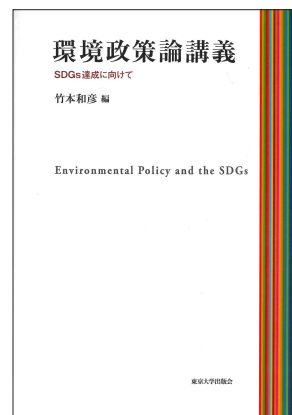
仕事柄、時々本が贈呈されます。よく知った人から送られてくることもあり、全く知らない方からいただくことも。最近二つの、性格を全く異にする本が送られてきました。一つは私の親しい友人 竹本和彦さん編著の『環境政策論講義—SDGs 達成に向けて』という、東大出版会から出た、環境政策の研究者による、特に若手の専門家に向けた本です。もう一つは『脱プラスチックへの挑戦—持続可能な地球と世界ビジネスの潮流』と題する本で、著者はNHK BS1 スペシャル取材班のベテラン環境ジャーナリストの堅達京子さんです。

『環境政策論講義』は、国連大学サステイナビリティ高等研究所の竹本和彦所長と同僚たちが、SDGs 時代における環境政策の在り方に一石を投ずることを目標に執筆した本です。まず「環境問題への対応」としては、大気環境、水環境、廃棄物と資源循環、気候変動、化学物質そして生物多様性について、それぞれ国内および国際的な政策展開をコンパクトに整理しています。その後、「社会を変える仕組み」として、持続可能な開発とSDGs、SDGs 達成に向けた取り組み、そして最後にSDGs 時代の環境政策の更なる展開に向けて、という課題を掲げ、研究者らしいオーソドックスな書きぶりです。本書を一言で評すれば、一世紀以上に及ぶ人間活動が環境に与えた影響とそれへの対策を手際よくまとめてぎゅっと絞った質の良い上澄液のような印象を与えます。

それに対して堅達さんの本は、前のはガラッと変わり、プラスチックに関わる

ヒューマンストーリーを上手に伝えています。テレビのプロデューサーらしく、まずは人に注目して、その人がどういうことをしたのかが興味深く書かれています。例えば書き出しのところで、オーシャン・クリーンアップというオランダをベースにするNGOの活躍の物語が出てきます。リーダーは、ボイアン・スラットという青年で、彼らが開発した特殊なネットで海洋プラスチックの半分くらいを回収しようとしている青年達の痛快な話です。若者の環境活動家としては、ここ1年余、いつもスウェーデンのグレタさんのことが話題になり、実際彼女のしていることは素晴らしい行動だと思っ

ていますが、堅達さんの本でボイアンさんのことも知り、このような勇敢な青年の挑戦がよくわかり、嬉しくなりました。もちろん本書はこれだけでなく、脱プラスチックに絡まるストーリーが満載で、驚きをもって読めます。



『環境政策論講義—SDGs 達成に向けて』
竹本和彦 編
発行：東京大学出版会



『脱プラスチックへの挑戦』
堅達京子 + NHK BS1
スペシャル取材班 著
発行：山と溪谷社